


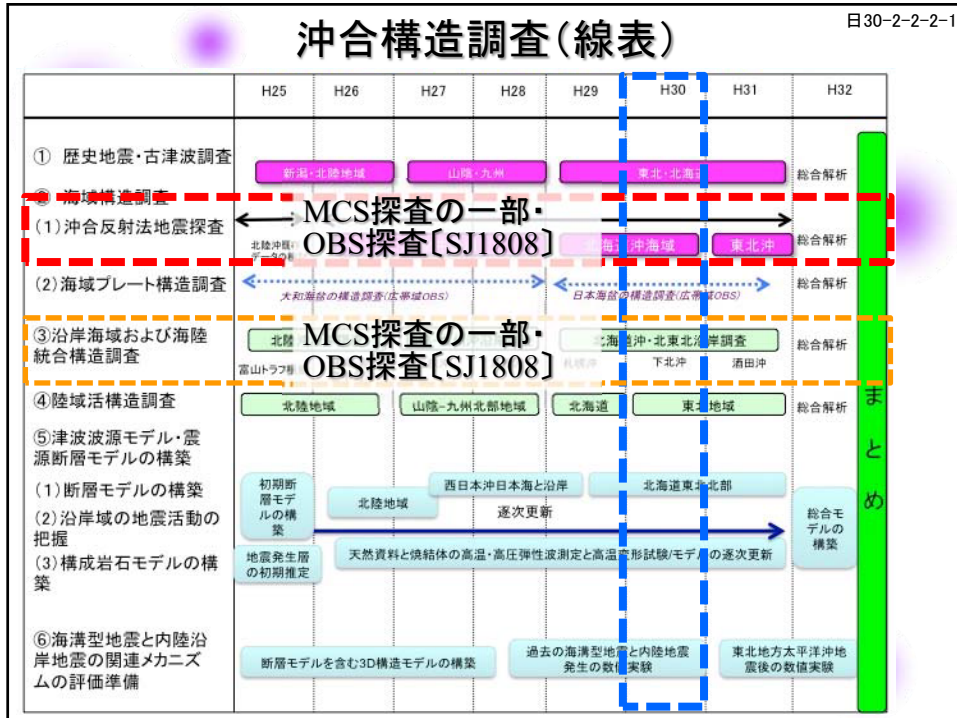
目30-2-2-2-1

日本海地震・津波プロジェクト

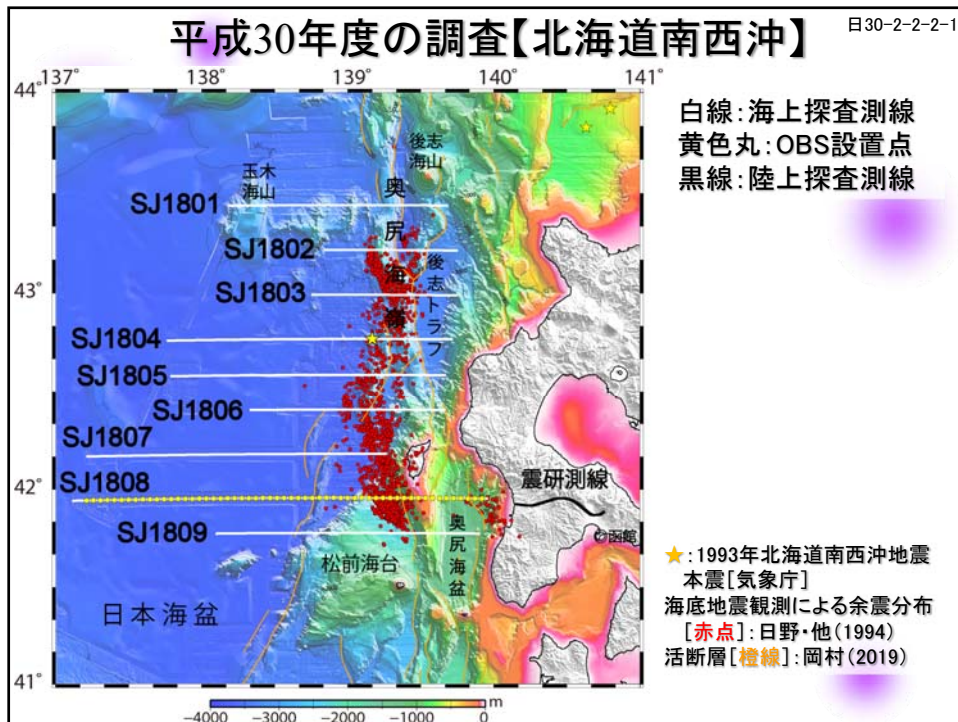
沖合構造調査

国立研究開発法人
海洋研究開発機構 

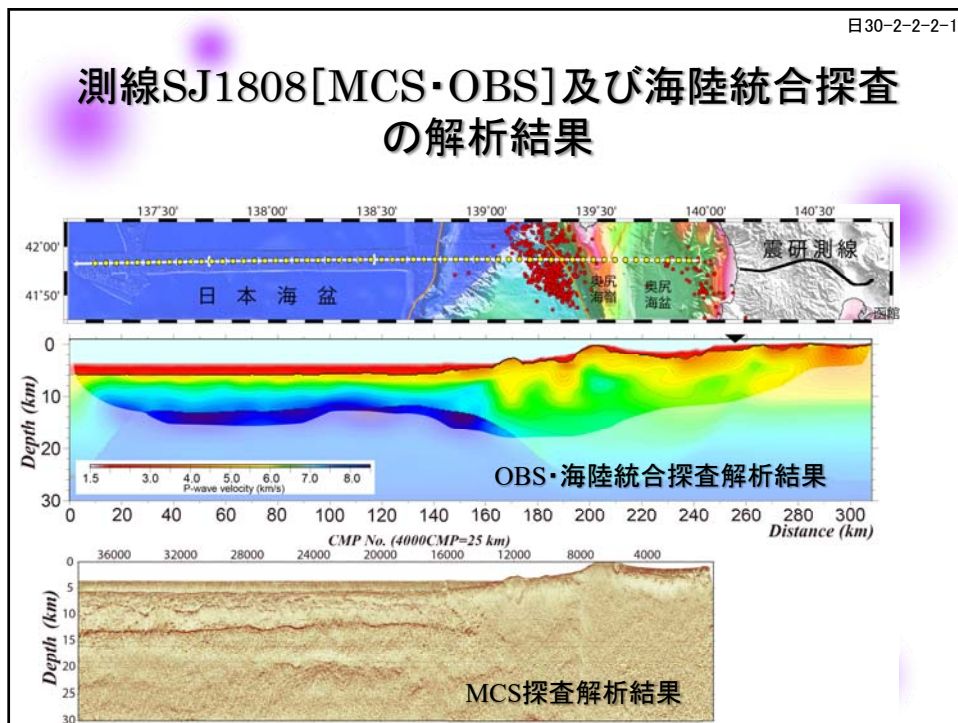
1



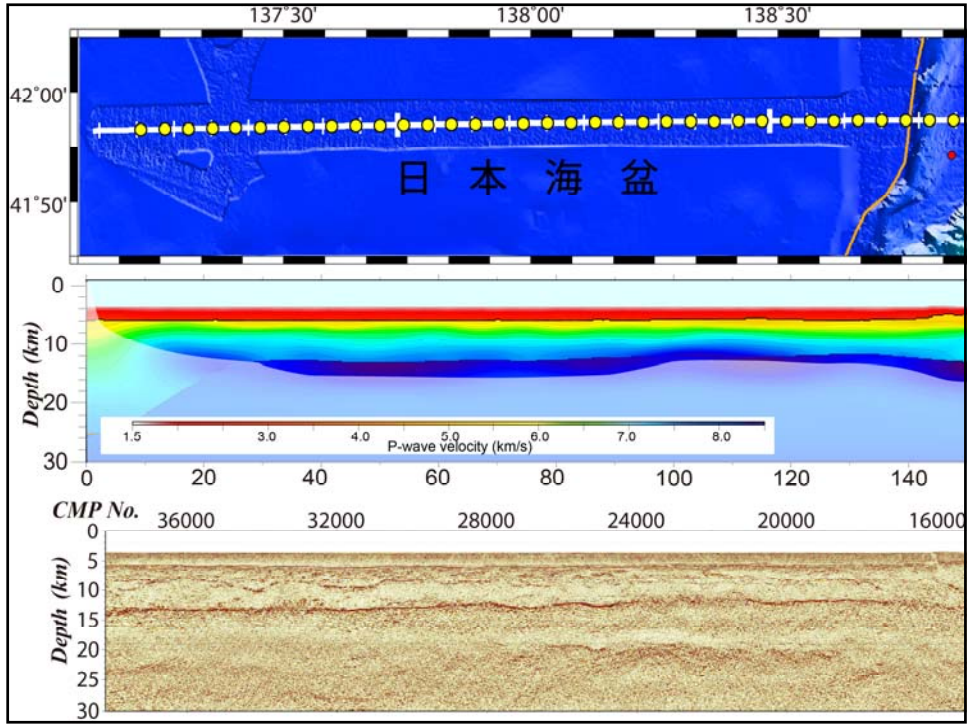
2



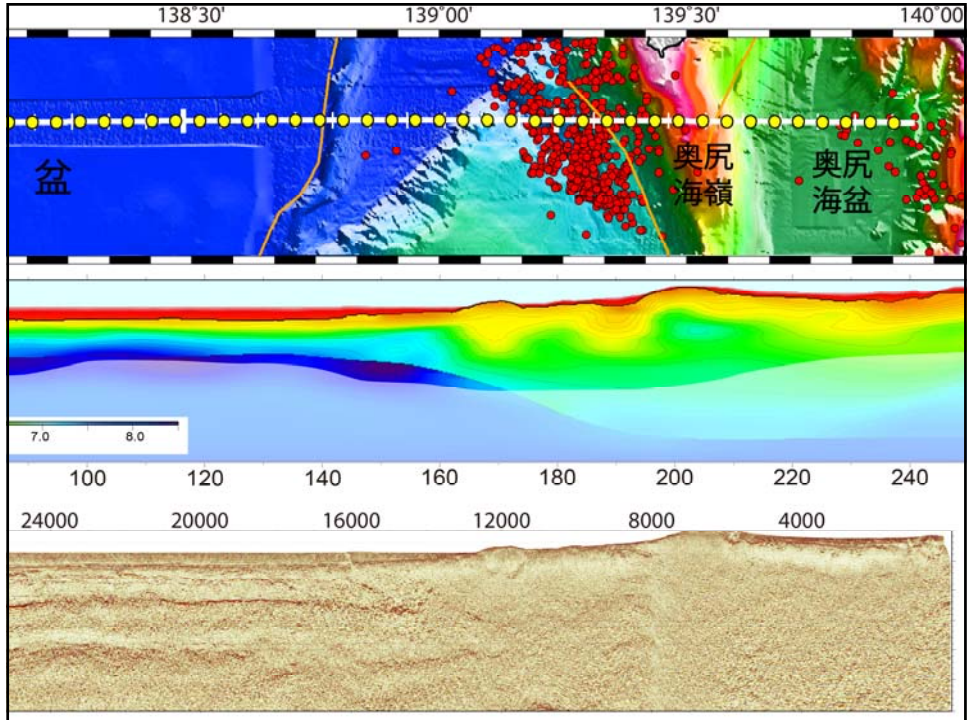
3



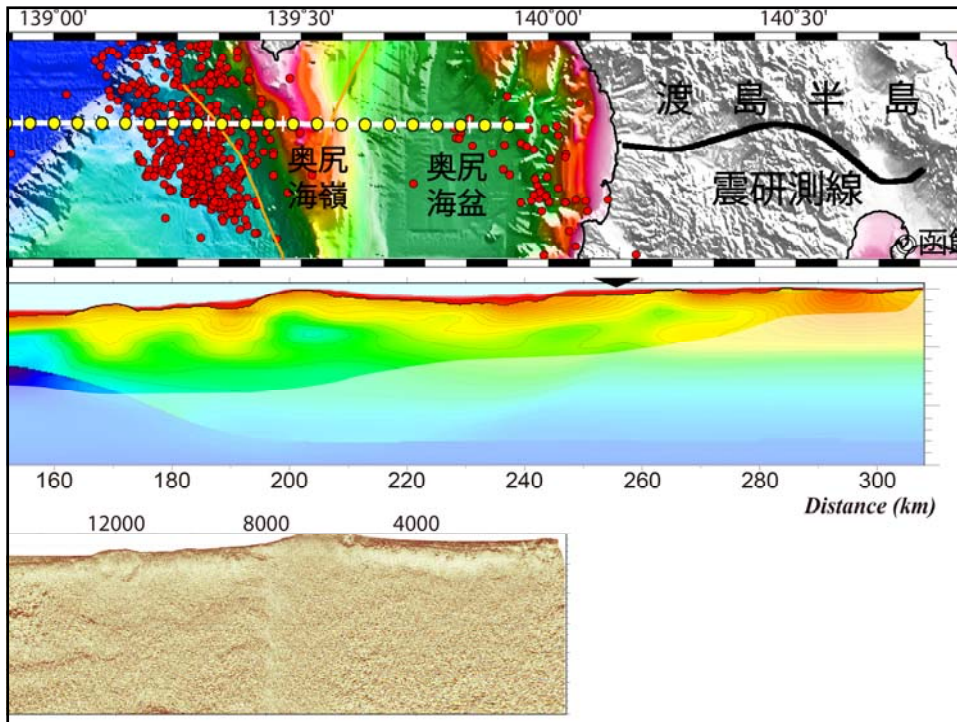
4



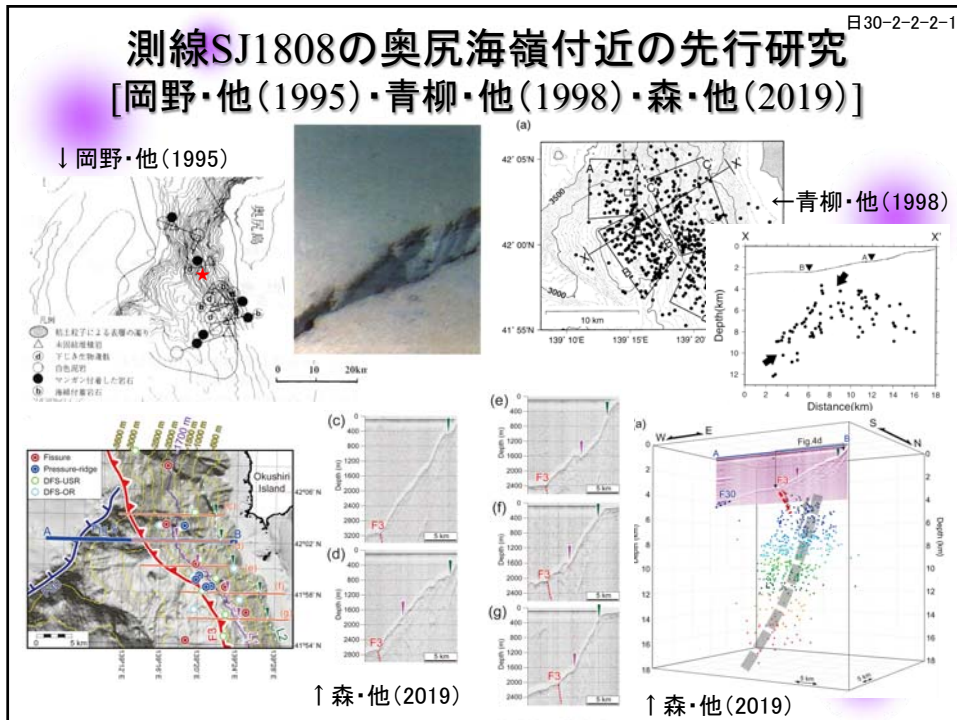
5



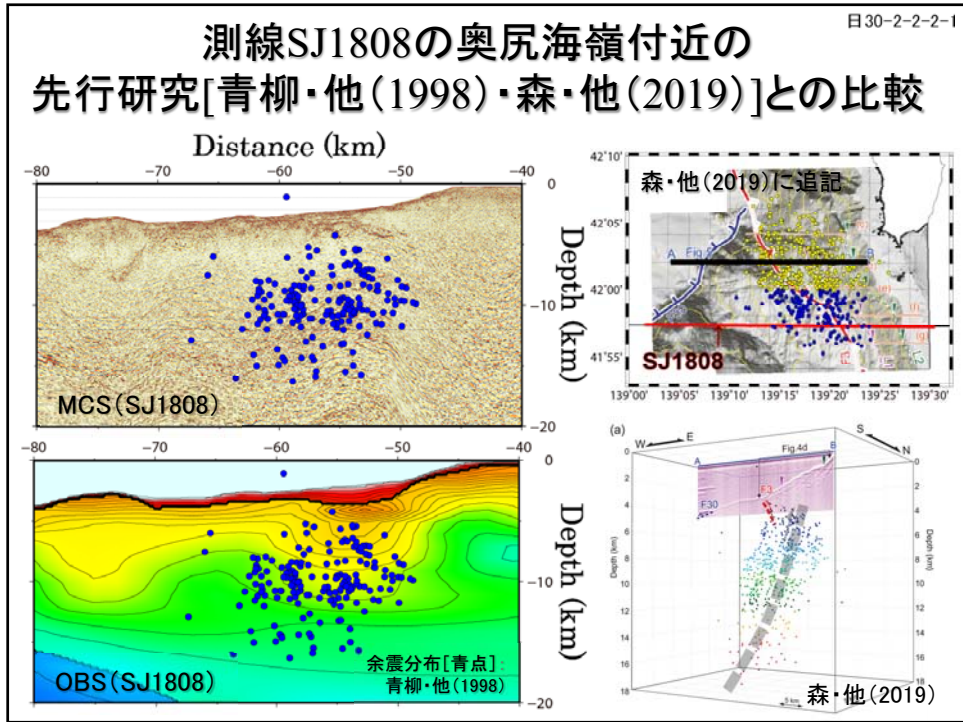
6



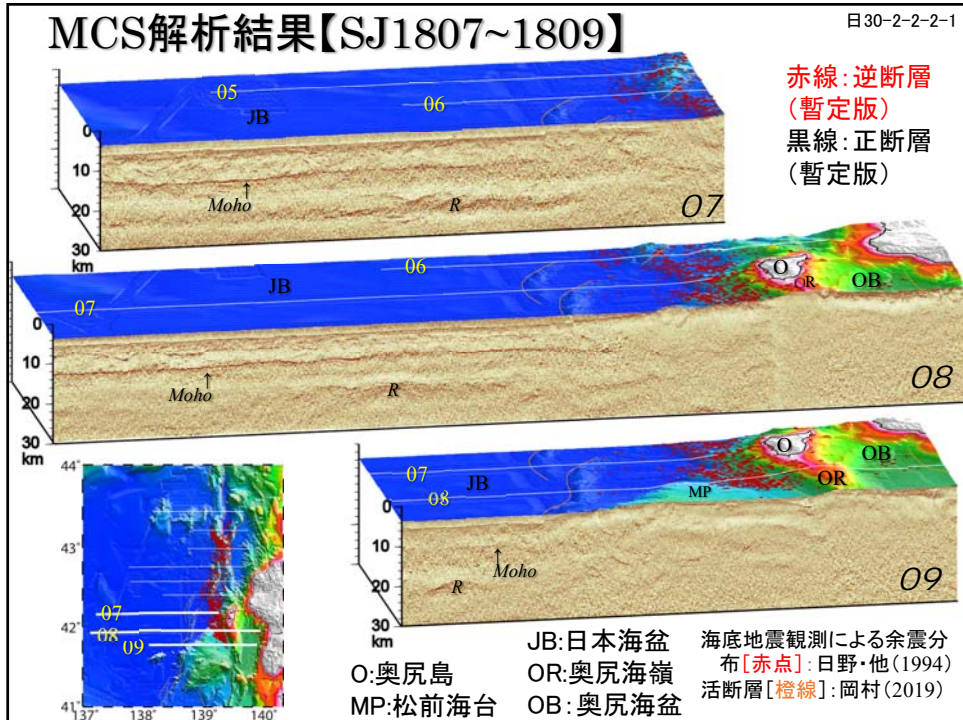
7



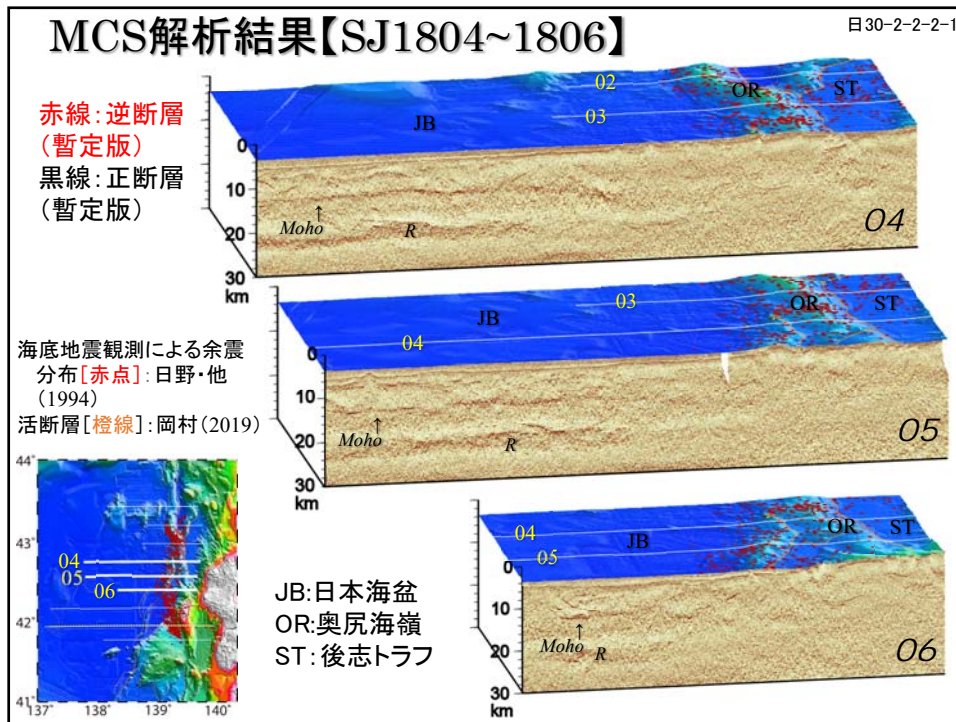
8



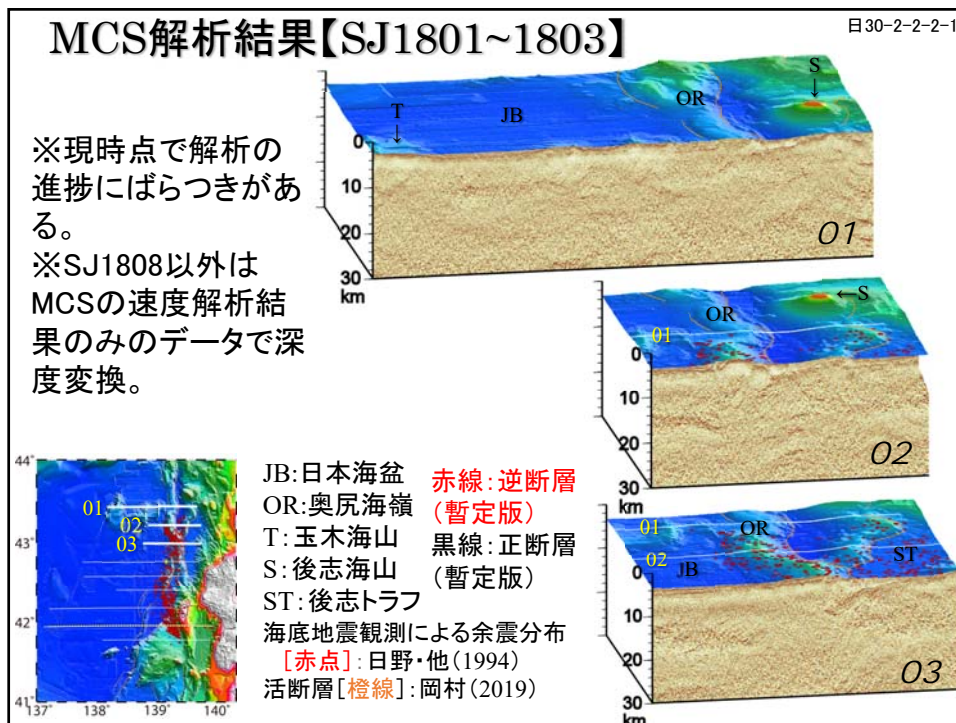
9



10



11



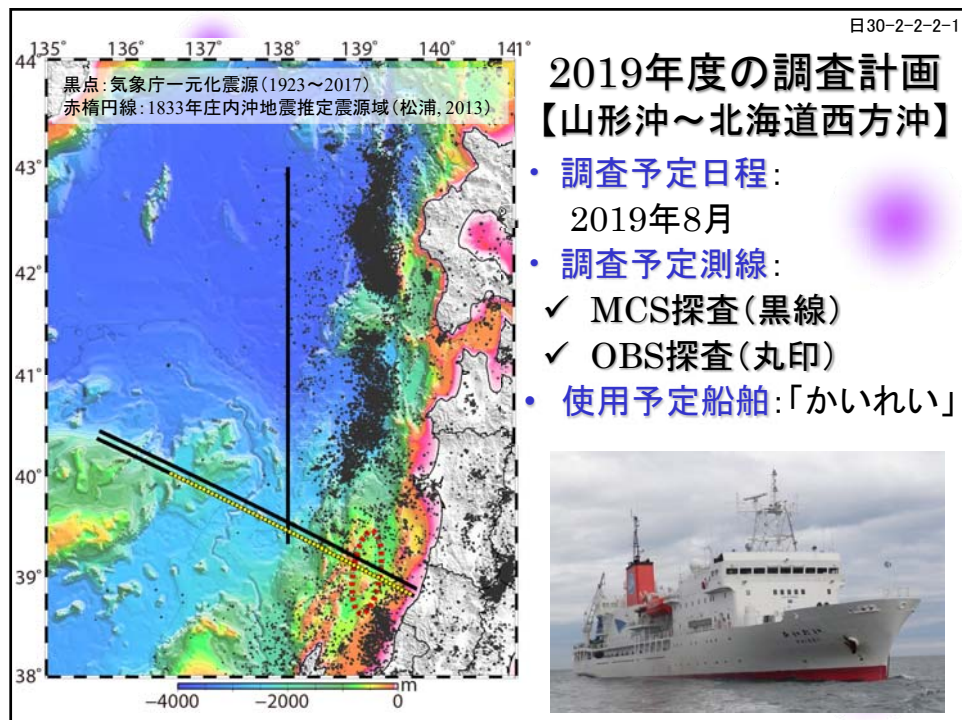
12

まとめ

日30-2-2-2-1

- 北海道南西沖地震震源域が位置する奥尻海嶺に関して、SJ1801～04にかけて西傾斜の逆断層を伴った短縮構造の形成が明瞭に認められるが、06より奥尻島が位置している南側では西傾斜の逆断層を伴った構造に加えて、東傾斜を伴った断層による構造の形成も示唆される。
- 日本海盆では、モホ面・最上部マントル・地殻内に明瞭な反射面が認められる。日本海盆東縁部はモホ面と見られる反射面のイメージが不明瞭になり、その領域では短縮した構造と地殻内に東傾斜の反射面が認められる。
- OBS探査の結果からは、日本海盆の領域では海洋地殻とみられる比較的均質なイメージとなっている。その一方、MCS探査の結果から短縮した構造が確認される日本海盆東縁部から東側で地殻が厚くなり始め、北海道南西沖地震震源域付近では速度分布が不均質になる。
- 今後、解析をさらに進捗させて、解釈・議論を進展させる。

13



14